



2024年度 図書貸出トップ10

順位	クラス	差出冊数
1位	1-2	95冊
2位	1-7	60冊
3位	2-7	45冊
4位	3-4	44冊
4位	3-7	44冊
6位	1-8	42冊
7位	2-2	38冊
8位	3-10	33冊
9位	2-8	27冊
10位	3-8	24冊

アウトプットの間

1月28日(火)
15:40~16:20

ビブリオトーク

あすすめ本を紹介しよう。

感動した本を発表しよう。

参加者募集!

雑誌・付録
プレゼント

『アニメニア』『Non no』『音楽の友』『Number』などの雑誌のバックナンバーや付録を抽選で希望者にさしあげます。

申し込み日:1月31日(金) 放課後

当選発表:2月3日(月)

☆知の航海へ! 新書を読もう! おすすめ新書コーナーに来てください!

新書とは、新書判(105×178mm)のサイズの本のこと。縦長のスリムな形が特徴です。専門分野の入門書であり、1冊読めば、その分野の体系だった知識がインプットできます。青少年のために、様々な分野・知識への案内・入門として、わかりやすく解説した「岩波ジュニア新書」「ちくま新書」「講談社新書」を、約1000冊そろえています。興味のある分野の新書を読んで知識を深め、自分の世界をひろげよう。

新着<岩波ジュニア新書> ★★★★★★ 新着 図書案内 ★★★★★★

<p>『野生生物は「やさしさ」だけで守れるか? 命と向きあう現場から』 朝日新聞取材班 多様な生きものがいる豊かな自然環境を維持するために、ときにはつらい選択をしなければならないこと。日々悩みながら命と向きあう現場の人たちを取材し、人と生きものとの共生のあり方を問いかけてます。</p>	<p>『食べものから学ぶ現代社会 私たちを動かす資本主義のカラクリ』 平賀 緑/著 豊かなはずの世界で「生きづらい」のは、経済学の考え方と私たちのリアルがずれているからではないだろうか。新たな目で、食べものから、現代社会のグローバル化、巨大企業、金融化、技術革新を読み解いてみよう。</p>	<p>『迷いのない人生なんて 名もなき人の歩んだ道』 共同通信社/編 遠回りしながら生きる人へ。私たちの身近にいるごく普通の人々が様々な生きづらさと向き合い、回り道の人生を歩んできた姿を描く。迷いを抱えながら生きる人への共感とエールを込めた一冊。</p>
<p>『フレーフレー! 就活高校生 高卒で働くことを考える』中島隆/著 高卒で就職した人たちの3年未満の離職率の高さが言われて久しい。企業とのミスマッチが原因なのか。昔ながらの1人1社制に問題はないのか。就職を希望する高校生が、自分に合った就職先が選べるよう、いまの時代に高卒で働くことを様々な観点から考察し、就活する高校生たちを応援する1冊。</p>	<p>『<弱いロボット>から考える 人・社会・生きること』岡田美智男/著 ロボット=完全無欠な存在、とイメージする人は多くでしょう。本書に登場するロボットはどれも弱みや苦手を持ち、それゆえ周囲の助けをかりて初めてコトを成し遂げます。弱さを補いあい、相手の強さを引き出す<弱いロボット>は、なぜ必要とされるのか。生きることや他者との関係性、社会の在り方と共に考えます。</p>	<p>『SDGsから考える世界の食料問題』小沼廣幸/著 国連では2030年までに世界の飢餓人口をゼロにするに掲げていますが、人口増も見込まれ、達成は困難と言われています。国連食糧農業機関(FAO)の職員として、食料問題と向き合い、今も邁進する著者が、どのような対策が必要なのか、SDGsの視点から考察し、具体例をもとに解決策を提言します</p>
<p>『原発事故、ひとりひとりの記憶 3.11から今に続くこと』 吉田千亜/著 2011年3月11日、地震、津波、そして原発事故が東北地方を襲った。あれから10年余が過ぎた。その間、福島と東京を往復し、人々の声に耳を傾け、寄り添い、取材を重ねてきた著者。あの日から今に続く日々を生きるひとりひとりの道のりを、時代や社会のありようと共に伝える。彼らの声が出し出すものとは何か…。</p>	<p>『10代のうちに考えておくこと』香山リカ/著</p>	<p>『男子が10代のうちに考えておきたいこと』田中俊之/著</p>
<p>『大人になるっておもしろい?』清水真砂子/著</p>	<p>『「ハッピーな部活」のつくり方』中澤篤史/著</p>	<p>『レギュラーにならないきみへ』元永知宏/著</p>
<p>『自分を変えたい 殻を破るためのヒント』宮武久佳/著</p>	<p>『「自己肯定感」を高めて自分を大切にしよう』古庄純一/著</p>	

『波の花 被災漁師と奇跡の犬』

藤崎 童士/著 新日本出版社



東日本大震災前は漁業が盛んだった岩手県の漁村。被災後、“海は蘇った”と、メディアが報じることに苦しみながらも、海と立ち向かい前向きに生きる現役の漁師がいた！ 愛犬タロウとのエピソードを交え、艱難辛苦の日々を訥々と語る漁師の生の声。多くの人の心を打つ感動のルポルタージュ。

『書店員は見た！』

本屋さんで起こる小さなドラマ
森田 めぐみ/著 大和書房



本屋さんで、よろず人生相談承ります！世界一話しかけられやすい。現役書店員が、100冊超の本をすすめてくる、笑えて泣けて、そして本屋さんに行きたくなる本！雑誌「サンキュ！」人気連載待望の書籍化！

『太陽を振り起こせ』

ドリアン助川/著 ポプラ社



ある日、世界から太陽が消えた。芳枝は一人息子の健太郎を失い、暗い家に閉じこもっていた。だが、その扉を叩く見知らぬ男の子があらわれる。その子は太陽を探しに行くのだという。闇の中で子どもが大人を導いていく。闇の底に驚くべき結末

『死の森の犬たち』

アンソニー・マゴワン/著



原発事故後のチェルノブイリの森でたくましく生きぬいた子犬のソーヤと、その子ミーシャ、そしてソーヤの飼い主だった少女ナターシャの運命を追う壮大な物語。野生のオオカミやクマやヤマメコがすむ森でくりひろげられる動物たちの冒険の歳月。

『最後の花火 スピス「うみそら」物語』

浜田 奈美/著



病と闘う子どもたちと支える家族が訪れる「うみとそらのおうち」。ここで過ごした家族の物語を描き、グリーンケアなどの課題にも踏み込む。こどもたちの思い、家族の葛藤、ボランティアの奮闘など、感動の記録。

『どうして死んじゃうんだろう？ いのちの終わりを巡る旅』

細川 碧々/著 大切な人を自殺で失ってしまった。死をどう受け止めたらいいんだろう？ 釈迦の高弟「あなん」と、著者の分身「テンテン」を進行役に、仏教の教えからはじまり、ソクラテス、イエス・キリスト、宮澤賢治など、古今東西の死をめぐる思索の旅がはじまった。心をゆきさる、生と死のものがたり。



『架空犯』

幻冬舎

東野 圭吾/著



誰にでも青春があった。被害者にも犯人にも、そして刑事にも。燃え落ちた屋敷から見つかったのは、都議会議員と元女優夫婦の遺体だった。華やかな人生を送ってきた二人に何が起きたのか。

『婚活マエストロ』

文藝春秋

宮島 未奈/著



40歳の三文ライター・猪名川健人は、婚活事業を営むドリーム・ハピネス・プランニングの紹介記事を書く仕事を引き受ける。雑居ビルの中の小さな事務所……。現れたのは、やけに姿勢のいいスーツ姿の女性・鏡原奈緒子。彼女は婚活業界では知らぬ者はいない「婚活マエストロ」だった。

『自分とか、ないから。 教養としての東洋哲学』

しんめいP/著



すべての答えは、「東洋哲学」にあった！ 東洋の哲学者たちは、「どう生きればいいのか？」という人類普遍の悩みを打破する「考え方」をこぎ飛んだ方法で、論理的に導いてくれる。知れば知るほど、この世界や自分の見え方が変わってしまうのが東洋哲学の面白さ。

『世界でいちばん素敵な 中世ヨーロッパの教室』

祝田 秀全/著



「力がすべて」の混沌とした時代に、人はなぜ惹かれるのか？ 西ローマ帝国滅亡後、およそ1000年にわたる激動のヨーロッパ史。皇帝と教皇、どっちが偉かったの？ 百年戦争って、100年間ずっと戦っていたの？

『動物と自然に感動する地図帖 地球も生物もすごい！と驚く100テーマ』



難しい話はなし、地図にするからこそ見えてくる世界の姿。地球のなりたちから身近な動物、天気や宇宙のことまで、自然に関する不思議をわかりやすく地図化。南極大陸の氷をはがしたら何が？ 自然災害の危険性が高い場所は地球のどこ？ あなたのいる場所は時速何kmで回転？

『災害の記憶を解きほぐす 阪神・淡路大震災28年の問い』

金 菱清/著



震災に終わりはないねん…涙、夢、笑い、後悔、葛藤。心の奥深くに眠っていた言葉に新しい感情が動き始める。不条理と苦難のなかを手探りで生きてきた阪神・淡路大震災の28年をほぐす。

『ライフライン ネット・電力・水“見えないシステム”から知る世界のなりたち』



わたしたちの生活に欠かせない、インターネット、電力、水の歴史やしくみ。隠されたシステムの秘密がわかると、国同士のかけひき、不平等、世界の裏側までも見えてくる。

『高校数学の美しい物語』

難波 博之/著



日本有数の数学系ウェブサイトの1000を超える記事の中から、特に人気の高い62編を厳選した本書は、すべての記事が、高校数学の（高校数学までの範囲で理解できて）美しい（主張または証明がシンプルでおもしろい）物語となっている。

『植物の謎 60のQ&Aから見える、強くて緻密な生きざま』



日本植物生理学会/編 ダイコンの辛さが場所によって違うのはなぜか？ 樹木の根がアスファルトを持ち上げられるのはなぜか？ 大気中の二酸化炭素濃度の上昇は、植物にどんな影響を及ぼすのか？ …などの様々な質問に 専門家集団が徹底回答！

『センス・オブ・ワンダー』

レイチェル・カーソン/著 森田真生/訳

「ここにきてよかったね。」



この星はすべての生命を祝福している。壊れようとしている世界を生き延びるために。若き研究者が、世界的ベストセラーを訳し下ろし、同時にその未完の作品を今京都から書き継ぐ。

『深海底ロボット、南極へ行く 極地探査に挑んだ工学者の700日』



いったい、そこは、どんな世界だったのか？ 水中探査ロボットの工学者が、日本初の南極用探査機をつくった！ その開発から、極地の湖底に潜航させるまでの怒濤の日々を描く。

『だれも教えてくれなかったエネルギー問題と気候変動の本当の話』



「気候変動」「環境問題」「原発再稼働」…世界の最前線では、どんな議論がなされているのだろう。フランスの人気漫画家&エネルギーと気候変動の専門家がタッグを組み、最新の知見を駆使し、我々が抱える課題に分析と解決策を提示する。我々の歴史と未来を照らす、全人類の必読書。